

各部からの報告

総務部

総務部長 平井 由紀子

○令和7年度定例総会

日時 令和7年4月18日

場所 如水会館

出席者 26名

○納涼会

日時 令和7年9月5日

場所 うなぎ久保田

出席者 18名

○第一ブロック保護司組織運営

連絡協議会(予定)

日時 令和7年10月23日

場所 銀座ブロッサム(中央会館)

○区長との懇談会(予定)

日時 令和7年12月22日

場所 区役所会議室

研修部

研修部長 小林 泰夫

○特別研修

テーマ 発達障害の少年に対する家族調

整について

日時 令和7年6月20日

場所 東京保護観察所

集団処遇室

○第Ⅰ期定例研修

テーマ 対象者との接触について

日時 令和7年6月13日

場所 区役所会議室

○第Ⅱ期定例研修(予定)

テーマ 面接結果の記録化について

日時 令和7年11月13日

場所 区役所会議室

○準定例研修(予定)

日時 令和7年12月22日

場所 区役所会議室

地域活動部

地域活動部長 中村 匠

○各地区ミニ集会応援

○イベントでの啓発活動

日時 令和7年10月11日

場所 ふれあい福祉まつり

千代田区社会福祉協議会

広報部

広報部長 柿内 健介

○部会開催

日時 令和7年6月4日 第96号について

8月1日 第一回校正

9月8日 第二回校正

10月1日 第一稿確認

10月8日 第二稿確認

11月13日 第97号について(予定)

編集後記

最近では保護司の身分であることや役割を広く知っていただくという社会になってきました。そのツールの一つとなる保護司会広報誌の作成に携わることになりました。保護司会活動12年目で実質初めての役割で知らないことばかりですが、経験豊富な仲間を支えられ第96号の発行ができました。ご協力いただいた皆様には心より感謝申し上げます。

さて、私たち保護司の役割の大きな部分を占めるのは更生保護活動ですが、個々の対象者と向き合い、再犯防止の手助けとなる存在になっていけたらと思います。

また、犯罪を犯さない社会、犯しにくい社会にしていくための活動も並行して力を入れていく所存です。それらの活動への理解と協力を得られるように、見やすく読みやすい広報誌にしていきたいと考えています。

(柿内)

広報部(順不同)

部長 柿内健介

副部長 土島豊裕 安田郁子

瀬谷達郎 熊倉章洋 井上優美子

堀田健二 小笠原正 堤美代子

縣裕久

発行人 千代田区保護司会会長

藤田 義一

編集人 千代田区保護司会広報部

連絡先 千代田区九段南一ノ二ノ一

千代田区役所福祉総務課厚生係

年2回・一四〇〇部発行

会長を再任して

千代田区保護司会会長 藤田 義一



令和7年4月18日定例総会後の理事会において、会長に再任頂きました。

前任期中、皆様とともに多くの活動を通じ基本的な「保護司」とは何か、「社会を明るくする運動」とは何かと言う疑問に当たり、これらについて改めて考えさせられました。特に対象者の少ない当千代田区での保護司の役割や活動内容等を整理し、まとめる事をこの1期2年の目標とします。

また、広く保護司候補者情報を集め、保護司の役割などの説明も的確に行い、検討して保護司会の拡充を図っていききたいと考えます。

さらに我々保護司間でのコミュニケーションを心掛け、意識や情報の共有を深めて、会員一人ひとりのモラルやモチベーションを高められる運営を目指していきたいと思えます。

地区、地域、全体の懇親を深めることを進め、個々の持っている多くの情報をそれぞれで共有し、保護司活動だけではなく、地域活動にも保護司会として積極的に参加できる環境を整えて参ります。

この2年間も引き続き、皆様のご理解とご協力を賜り、共に楽しく充実した日々に来るようお願いをして、再任の挨拶とさせていただきます。



千代田区保護司会会報
令和7年10月20日
第96号
発行人 藤田 義一
編集人 広報部

“社会を明るくする運動”駅頭広報活動
～みんなで作る明るい未来～ JR秋葉原駅にて

■ 退任のあいさつ

小笠原 正

保護司を委嘱されて気付けば退任の時期となりました。

私の父も保護司でしたので、概要は知っていました。細かいことは知りませんでした。そして「お前が悪いことをしたら直ぐに辞表を出せる様、胸のポケットにはいつも辞表を入れている」と父に脅されていました。

初めての案件は交通事故の少年でした。面接を度々キャンセルされ、何回も面接時間を変更した思い出があります。

また他にも記憶に残っているのは、殺人を犯した人の生活環境の調整です。私は覚悟を決め彼の住所地に行きました。しかし、そこは普通の事務所ビルで寝泊りができないという環境で、それは法律的に居住地にならないということです。したがって私の事案にはならないということになりました。この様に困った時または判断が難しい時は、担当の保護観察官に相談をすることです。

保護司の生活も残りわずかとなり、色々な事が思い出されますが、一番の思い出は皆様との宿泊研修で施設巡りをしたことです。個人的ですが秋芳洞は素晴らしいところでした！



■ 退任のあいさつ

池田 憲泰

平成元年9月に委嘱し、任期満了により令和7年9月16日で退任となります。36年間無事保護司を務めた事に保護司会、関係者に対し御礼申し上げます。

平成から令和へと年号が変わり社会情勢が変化しました。その間、千代田区は事件数、対象者も少なく推移しました。犯罪予防が実を結んだと感じます。また私が対象者と面接した事を思い出すと、人と人との関りがいかに大事かと思えました。特に社会を明るくする運動での駅頭広報、ミニ集会、警察・学校との連絡会議、そして定例研修、宿泊研修等と多くの行事が懐かしく思い出されます。

これから新しい保護司の方が経験を積み活躍されますようお願いしております。ありがとうございました。

■ 第1期定例研修

「対象者との接触について」

西村 京子

開催日 令和7年6月13日
場 所 かがやきプラザ会議室

磯網主任官をお迎えして標記の課題で研修を行いました。

前半の講義は面接に関わる内容でした。

保護観察対象者との接触方法は、面接・電話・SNS等の利用がありますが、最も重要な

のは「面接」であると再認識しました。主任官から言葉からの情報は3割、それ以外の情報が7割と伺いました。言葉以外の表情や目の動き、仕草や態度など、直接的接触から得られる変化を見逃さない事が大事と痛感しました。

後半は、グループに分かれ4つの事例について討議いたしました。それぞれのケースの背景、保護司と対象者との関わり方など、様々な場面を想定し活発な話し合いの後、各グループの代表が意見をまとめ発表いたしました。

千代田区は、保護観察・環境調整の件数が少ないため、このような事例検討を通じて、保護司間の情報共有・様々な視点からの対応の仕方を学ばせていただきました。

■ 特別研修

「発達障害の少年に対する

家族調整について」

山崎 充彦

開催日 令和7年6月20日
場 所 東京保護観察所

ご来賓のご挨拶をいただき、続けて「発達障害の少年に対する家族調整について」というテーマの講義・講話を拝聴しました。東京保護観察所の西嶋太統括保護観察官には「保護観察と発達障害」について、発達

千代田区更生保護女性会

■ 「ステップ押上 新施設見学」

富士見地区 木ノ島 希久子

開催日 令和7年3月27日 (木)

ステップ押上の施設見学で当地を訪れた際、旧施設との違いに驚きました。新築の建物は更生保護施設には見えず、真っ白でお洒落なマンションのような外観でした。

天井から床まで、壁片面がガラス張りになっていて、森山理事長の挨拶、続いて加持施設長の説明を伺いました。資材高騰による資金不足、旧施設の地中障害物撤去の難工事等、ご苦労があったそうです。以前より地域との良好な交流があったことで、よく耳にする施設改修時の地域からの反対もなく、寄付まであったという話は印象深いものでした。

その後は施設内を見学。居室は全て個室で、白を基調とした明るい室内は、テレビ・冷蔵庫付。入居希望者殺到も領けます。厨房も最新設備でしたが、調理の人材が確保できず、お弁当で対応しているそうです。

この新しい施設で、頼る人がなく生活環境に恵まれなかった入居者が、自立に必要な指導援助を受け、一日も早く更生することを願ってやみません。

■ 更生保護女性会「子育て支援活動」

万世橋地区 浅賀 和世

子育て支援は6地区の5児童館で活動しています。

- ・ 一番町児童館 (麹町地区)
 - ・ 四番町児童館 (富士見地区)
 - ・ 西神田児童センター
 - ・ (神保町地区、神田公園地区)
 - ・ 神田児童館 (万世橋地区)
 - ・ いずみこどもプラザ (和泉橋地区)
- 活動日 月1・2回
- 内 容 身体測定の手伝い、雑巾縫い等
- 会 員 各地区5・6名

【神田児童館について (万世橋地区)】

会 員 5名

活動日 第一火曜日 10時～12時

内 容 工作タイム、掲示板装飾等の下準備、文房具類 (紙・筆記用具類) の整理、雑巾縫い他

コロナ禍前は午後2時から子ども達とも対面で季節にあったものづくり (工作タイム・桜もち・べっこう飴・スライム作り・新年会お楽しみ会等) を通して私達もいっしょに楽しみながらお手伝いをしていました。現在は午前中に活動しているので子ども達との関わりはありませんが、今後も楽しく続けていきたいと思つて居ります。



更生保護女性会長賞

見つめよう

自分の言葉と 自分の行動

富士見小学校3年

大井 理央

判断が

人生変える 分かれ道

神田一橋中学校2年

柳葉 大志

審査員特別賞 (24点)

麹町小学校

3点

九段小学校

4点

富士見小学校

4点

お茶の水小学校

3点

昌平小学校

2点

和泉小学校

1点

神田一橋中学校

5点

九段中等教育学校

2点

佳作 (121点)

麹町小学校

10点

九段小学校

6点

富士見小学校

24点

お茶の水小学校

27点

千代田小学校

1点

昌平小学校

23点

和泉小学校

26点

神田一橋中学校

3点

九段中等教育学校

1点



ポスター



推進委員会委員長賞
麹町小学校5年
三浦 友帆里



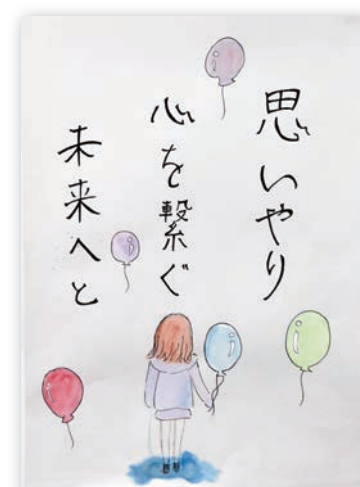
保護司会長賞
九段小学校3年
太田 絵美莉



更生保護女性会長賞
麹町小学校5年
小嶋 那奈



推進委員会委員長賞
神田一橋中学校1年
水野 梨々唯



保護司会長賞
神田一橋中学校1年
小林 ゆう



更生保護女性会長賞
神田一橋中学校2年
木村 乙葉

障害の法による定義、また現在の東京保護観察所係属における発達障害類型者の割合など現在の状況について講義をいただきました。

続けて、駒澤大学文学部心理学科の岡島純子准教授には「発達障害(神経発達症)児・者とその家族への支援」として、発達障害について脳の働き方を「実行機能」「報酬系機能」「注意の特徴」「中枢性統合」「心の理論」という認知する力の特徴について、日常生活での様子を交えて説明があり、また理解して支援するための事例をあげた講話をいただきました。

質疑応答では質問も多くあがり、大変身近な話であり、また知っていることで対応できる支援があることを考えさせられました。発達障害は常に考えられる可能性として無知ではいられず、引き続き学んでいきたいと思っています。

麹町・富士見地区ミニ集会

岸 啓子

開催日 令和7年7月1日(火)
場所 富士見小学校体育館

社会を明るくする運動七十五周年の節目を迎えた今年のミニ集会は富士見小学校で5・6年生の児童も参加して開催されました。始めに推進委員長の樋口区長が社会を明るくする運動の意義をわかりやすくお話して



下さり、6年生児童による「わんぱく太鼓」の演奏で幕を開けました。体育館中に響き渡る力強い太鼓の音色にあらためて日本伝統文化のすばらしさを感じ、ニールセダカの楽曲とのコラボも意外なほど調和して見事なパフォーマンスでした。

続いて、専修大学法学部の岡田憲治教授に「人生はまだ始まっていません」をテーマに講演をしていただき、児童の皆さんにも質問を投げかけながら、なごやかな雰囲気の中で進行了ました。

さらに、先生ご自身の経験談を踏まえ、声に出す「ことだま」で結果が変わることがあるので、言葉の持つ力をなめないでほしいと力説され、また、子どもに質問され

た時はごまかさないうで説明してあげないと、自分の頭で考えない子どもに育つとの大人の対応の重要性を語られました。日頃、先生を支えている「ことだま」「死ぬこと以外はかすり傷」のメッセージを残し、講演は終了しました。

講演後、小牧校長に講評を兼ねてご挨拶をいただき、最後に麹町警察署生活安全課の吉原少年係長に管内の状況やSNSの注

神保町・神田公園地区ミニ集会

土島 豊裕

開催日 令和7年7月14日(月)
場所 千代田小学校体育館

心配された台風5号の影響もなく神保町・神田公園地区ミニ集会在無事に開催されました。開会にあたり、藤田保護司会会長、社会を明るくする運動推進委員長である樋口区長よりご挨拶があり、地域の学校の協力のもと、青少年の課題を共有し、地域とのつながりを深める場として本集会の意義があると述べられました。

続いて千代田小学校6年生児童による合唱が披露され、「悲しみや苦しみがいつの日か喜びに変わるだろう、信じてる」と歌う『ビリーブ』と『WAになつておどろろ』の2曲を純粋で一生懸命な歌声で届けてく



JR飯田橋駅

JR飯田橋駅 8時30分～
JR神田駅 8時30分～
JR秋葉原駅 15時30分～
地下鉄神保町駅 16時～

7月1日に「社会を明るくする運動」の駅頭一斉広報活動が行われました。

■駅頭一斉広報活動の報告

児童退席後には、万世橋警察署生活安全課の正木課長よりネットリテラシーについてご説明があり、浅岡校長による講評をもつてミニ集会は閉会となりました。



地下鉄神保町駅



JR神田駅



れました。
また、スポーツジャーナリストの瀬戸口仁先生を講師に迎え「怒りを味方につける9つの習慣」と題してご講演いただきました。長年にわたるプロ野球・MLB取材経験を交えたエピソードは説得力があり、参加者の心に響く内容でした。講演では、アンガーマネジメントとは「怒りの感情と上手につき合う方法」であり、怒りは6秒経過するとトーンダウンするため、その時間をやり過ごすこと、怒りの許容範囲を広げること、そして「変えられること」にだけエネルギーを使うことの大切さが紹介されました。怒

■万世橋・和泉橋地区ミニ集會

松川 京子

開催日 令和7年7月10日(木)
場所 昌平小学校体育館

第75回「社会を明るくする運動」ミニ集會が昌平小学校の体育館にて開催されました。縣保護司会副会長、社会を明るくする運動推進委員長である樋口区長より挨拶がありました。

続いて昌平小学校金管バンドの児童による『ミッキーマウス・マーチ』が演奏され、堂々とした姿に大きな拍手が送られました。その後6年生を対象に「一般社団法人未来とコラボ」代表理事の山田将史氏による講演「一人ひとりが主人公くあなたのココロ

りを味方にするためには、日々のトレーニングが重要だと強調されました。
「怒りを味方」とともに、千代田小学校の児童たちが歌う姿から、協調性や優しさ、寛容さを学び取る姿勢は、私たち大人にも必要な習慣であるとあらためて感じさせられました。
講演終了後には、神田警察署生活安全課の宮本少年係長より最近の特殊詐欺の事例についての注意喚起がありました。
最後に、千代田小学校の須藤校長より講評をいただき、盛況のうちに閉会となりました。



ザシが未来を作る」が始まりました。「主人公本来の自分」というテーマをもとに、フラフープを用いたチーム挑戦を通して、協力・挑戦・成功の経験が語られました。
また、昨年度5年生時に授業で作成した「マイクレド(My Credo)自分の行動指針」を振り返り、努力し続けること、考え続けることの意義が強調されました。山田氏はご自身の経験を元に「すべての出来事に意味があり、それを活かすことで成長できる」という「おかげさま」の精神をお伝えいただきました。

第75回「社会を明るくする運動」 標語・ポスターコンテスト入選作品

令和7年8月1日、選考審査会が開催されました。応募数は、標語が小学生1,557点、中学生255点の計1,582点、ポスターが小学生125点、中学生11点の計136点でした。

標語

推進委員会委員長賞

いい未来

切り拓くのは 自分たち

麹町小学校5年 池畠 駿

認め合い

更生への道 明るく照らす

神田一橋中学校2年 中屋 結楓

差しだす手

一瞬の勇気に 救われる

桜蔭中学校3年 佐々木 純葉

保護司会長賞

あと一歩

ふみだしてみよう 明るい社会

麹町小学校5年 幾嶋 柚貴

つまずいた

君の歩幅と 歩いてく

九段中等教育学校3年 植村 成美